

SPECIAL INTERVIEW

音楽インタビュー

世界2大都市のステージに立つ

Legendary rock guitarist Tomoyasu Hotei

布袋寅泰

NOV 9
2013
LONDON

NOV 14
2013
NEY YORK

「いよいよ、本当の勝負のときが来た」

ギタリスト・布袋寅泰が「世界」を見据え、昨年8月から活動の拠点をロンドンに移した。世界進出の序章としてニューヨークとロンドンの2大都市でライブを行う。ロンドンでの生活とNY初ライブへの意気込みについて聞いた。

「ああ俺はやっぱ夢の空の下にいるな」

——ロンドン生活はいかがですか？

ここは昔からなじみのある街でして、今は郊外でのもんびりと田舎暮らしを楽しんでいます。家族が移り住むということに特に11歳の娘が適応できるか不安でしたが、今では友人にも恵まれ、ホッとしています。この前、娘たちをピザ屋に連れて行ったとき、娘が友達に「わたしのパパ、英語が下手なのって。とうとう僕の英語は超えられたな」と（苦笑）。ほかにも、娘と地下鉄に乗ったり公園でランチし

たり、東京ではできなかった「当たり前の暮らし」が新鮮です。ロンドンのはんびりしているの、不便だし遅いし信用できない（笑）。でも1年経って「ま、いっか」と、だいぶロンドン人になってきました。

——音楽的な刺激という意味では？

クリエイティブな人との触れ合いも徐々に始まっているので、今回の2大都市公演を経て、次の作品に向き合う予定です。今後は言葉（歌詞）に頼らず、自分の一番の持ち味であるギター

を前面に出していきたいです。

——機材など、ご自分で運んだりしているとか。

初めのうちくらいはやらないうとね。最初から人任せにしちゃうのは良くないです。先月、ある文化的なステージイベントに呼ばれた際、アコースティックギターのワイヤレスが用意されていたり音が鳴らなかつたりと不備ばかりで…。日本だったらテーブルひっくり返すくらいなんですけど（苦笑）。こういう経験もチャンスだと思ってそれを笑って受け入れながら、タフになつていかねければね。

——ニューヨークでのライブは初めてなんですね！

僕は1970年代後半

New York Live Show

Open 6pm, Start 8pm
@ Highline Ballroom
431 W. 16th St.
(bet. 9th & 10th Aves.)
Ticket: \$30-55
www.highlineballroom.com/show/2013/11/14/hotei

Nov. 14
(Thu)

Information: www.hotei.com

NY初ライブ

メンバーは？ 選曲は？

「デヴィッド・ボウイやブルース・スプリングスティーンと一緒にやってきたドラマーのザッカリ・アルフォードと、ベーシストのトニー・グレイという、非常にテクニカルなミュージシャンとやることで、僕の音楽も変わるのが楽しみ。『新・仁義なき戦いのテーマ』（キル・ビルのテーマ曲）は、エクステンドした特別バージョンでやります！」



布袋寅泰 ■BOØWY解散後、ソロアーティストとして活躍する一方、音楽プロデューサー、作詞家、作曲家としても活動。2003年には映画『キル・ビル』に、楽曲『新・仁義なき戦いのテーマ』を提供。12年8月から家族と共にロンドン在住。

「たどりついたところが夢
そういう生き方をしたい」

——今後の活動や目標は？

絵を描き終わつたときに夢が完結するというよりも、たどりついたところが夢だったという生き方をしたいですね。そのためには前に進み続けなければ。今は下手（したて）に出ていますけど、世界中の人をギヤ

フンと言わせたい思いはある。これからもっと磨いていかなければと、最近では日本にいるときに以上にギターを練習しています。とは言っても、ギターには自信があるし負ける気はないので、いよいよ本当の勝負のときが来たなと思っています。

——最後に、読者へメッセージをお願いします。

海外で日本人ががんばっている姿を見ると僕も気合が入ります。きょうも娘を学校に送る際、ミニクーパーでビートルズを聴いて秋のロンドンをドライブしながら、「ああ、俺はやっぱ夢の空の下にいるな」と感じました。外国の空の下にいると寂しいこと苦しいこともあるけど、着実に前に進んでいる自分を信じましょう。海外に暮らす日本人同士、生きる世界は違えども、僕は音楽でエネルギーを、皆さんは皆さんの力でエネルギーを与え、支え合っていければいいと思います。